

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																				
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 三村 光	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																				
学校法人 三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																			
工業	工業専門課程	国際ITシステム学科	令和3年2月 文部科学省告示	-																			
学科の目的	日本国内はもとより母国や海外で活躍できるシステムエンジニアやプログラマー、システムオペレーターなどの実践的な技術や知識を持ったITエンジニアの育成を目指す。併せて、日本企業で就職する際に必要とされる日本語能力や日本におけるビジネスコミュニケーションスキル等を身につけた人材を育成する。																						
認定年月日																							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																
3年	昼間	2,590	936	2,123	160	0	0																
3219時間																							
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																		
90人	48人	48人	2人	3人	5人																		
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階 科目終了時に試験、レポート等で評価																		
長期休み	■夏季休業日:8月9日～8月28日 ■冬季休業日:12月19日～翌年1月12日 ■春季休業日:2月6日～3月13日			卒業・進級 条件	①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定3級、 サーティファイ C言語検定3級、 サーティファイ Java検定3級 サーティファイ Excel検定3級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する																		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等			課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修 ■サークル活動: 有																		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 【国内】カシスコミュニケーション(株)、三和電子(株)、一井工業(株)、コーセーエンジニアリング(株)、㈱アンリックス (株)置田鉄工所、大松工業(株) 【海外】PT.CODEFIN GROUP、PT.MITSUBISHI HEAVY INDUSTRIES INDONESIA 他			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)																		
	■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JLPT日本語 能力試験N1</td> <td>③</td> <td>5人</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>JLPT日本語 能力試験N2</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>サーティファイ 情報処理検定3級</td> <td>③</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	JLPT日本語 能力試験N1	③	5人	2人	JLPT日本語 能力試験N2	③	8人	5人	サーティファイ 情報処理検定3級	③	9人	9人
	資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																		
	JLPT日本語 能力試験N1	③	5人		2人																		
	JLPT日本語 能力試験N2	③	8人		5人																		
	サーティファイ 情報処理検定3級	③	9人		9人																		
	■卒業生数 9 人																						
■就職希望者数 9 人																							
■就職者数 9 人																							
■就職率 100.0%																							
■卒業者に占める就職者の割合 : 100.0%																							
■その他 ・進学者数: 0人																							
(令和 3 年度卒業生に関する 令和4年6月1日 時点の情報)																							
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 令和3年4月1日時点において、在学者50名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者48名(令和4年3月31日卒業生を含む)		■中退率 4.0 %																				
■中途退学の主な理由 本人の都合による帰国、進路変更のため																							
■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																						
当該学科の ホームページ URL	URL https://oic-ok.ac.jp/assets/document/international/2023.pdf																						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、日本国内および母国や海外で活躍できる実践的な技術や知識を持ち、日本企業で必要とされるビジネス日本語力やコミュニケーション能力を備えた人財の育成を目指す。そのために、日本での留学生採用動向やシステム開発技術、また就労ビザ取得についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、日本企業での採用実状やシステム開発と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

留学生が日本で就労ビザを取得し、就職できるようなIT技術者育成のために、システム業界関係者、就労ビザ取得および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
岡崎 博之	NPO法人メンターネット 理事長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	①
瀬尾 法行	カシスコミュニケーション株式会社 代表取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
鳥津 学	トリツ機工株式会社 業務部総務係長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
芳原 慶真	コーサーエンジニアリング株式会社 総務部総務課長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	③
伊藤 宏一郎	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務課長補佐	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	
山下 達也	専門学校 岡山情報ビジネス学院 国際ITシステム学科 学科長代理	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	
難波 芳子	専門学校 岡山情報ビジネス学院 グローバル推進室 室長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(例年の開催時期は、9月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年4月23日 16:00～17:30

第2回 令和3年9月27日 16:00～17:30

第3回 令和4年1月26日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

<委員会意見より現在実施中項目>

・留学生が、日本で働く上で重要になってくるのは、日本語力である。ITの知識・技術について基礎を修得していれば、入社してから社内で教えることはできる。そのため、留学生が就職してからもJLPTの取得について母校に相談できる体制を作りたい。就職してからもJLPTにチャレンジできる窓口があると会社としても助かる。→卒業しても学校とつながる体制をどのように作っていくか次回の委員会までに決定しておく。

<委員会意見より具体的内容検討中項目>

前回の委員会にて提案いただいた、就職してからもJLPTにチャレンジできる体制としては、本校で「日本就職成功アプリ」と「Quizlet」を導入し、卒業してからも継続できるようにしている。また、Lineとメールで交友会を立ち上げ、学生と教師がつながり、連絡が取れる体制としているので、卒業後にJLPTの取得に関していつでも連絡が取れるようにした。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

留学生が、日本のIT業界（システム開発系、Webエンジニア系、制御システム系、CADエンジニア系）で働くことを目的とし、技術者育成のため、上記4分野を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し、今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはキャリア実習Ⅰでは、日本で働く体験をキャリア実習Ⅱでは上記4分野の中で1分野についての仕事が体験でき、その業界で活躍している方から業界に関する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア実習Ⅰ	実際の現場で実習することにより、日本の社会で働く経験とビジネスマナーを実践し、日本で働くための基礎的な知識・技術力を身につける。	(株)オフィスダン、トリツ機工(株)、板野機工(株)、有限会社ミト・ワークス、(株)日産サテオ岡山、(株)キャリアプランニング、株式会社シンニチロ、平林金属(株) 以上8社
キャリア実習Ⅱ	実際のIT現場で実習することにより、日本のIT会社で求められるスキル、専門職の魅力、人間性を養い、将来の就職先の視野を広げる。	トリツ機工(株)、(株)シンニチロ、コーサーエンジニアリング(株) トスコ(株)、(株)岡山総研、(株)イノテック、(株)キャリアプランニング 以上7社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・主催：一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会 留学生委員会

・日程：令和3年6月25日(金)

・参加者：難波 芳子

・研修名：「今こそ考える留学生支援～コロナ禍における専門学校のチャレンジ～」

内容：一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会は、大阪府をはじめとする行政諸機関と連携し、高等学校や中学校への職業教育の提供および専修学校や各種学校への理解を促進するための活動を行っている。研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っており、留学生における他校との情報共有や教師のレベルアップを図っている。今回のセミナーにおいては、まだまだ終わりの見えないコロナ禍において、専門学校と日本語学校のこれからの留学生支援、専門学校と日本語学校との連携について考えることを目的とした研修であった。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・主催：一般社団法人 全国専門学校教育研究会

・日程：令和3年1月24日(月)

・参加者：山下 達也

・研修名：中堅教員向け研修「アセスメントと評価活動ー学習者の学修成果を適切に評価するためにー」

一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、学習者の学修成果を適切にアセスメントすることと、それらの情報を含めて教育活動を適切に評価することについて学び、実際に現場で使用しているテスト問題等を題材として、それらをブラッシュアップしていくことで実践的な評価手法を体系的に学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

・主催：NPO法人メンターネット

・日程：令和4年11月頃予定

・参加者：難波 芳子

・研修名：「留学生就労の在留資格変更について」

内容：NPO法人メンターネットは、多文化共生社会や企業経営の国際化に向けたさまざまな課題を解決するため、メンターのキャリアやネットワーク、そして外国籍住民の力を結集させて総合的に支援している団体で、本校においても留学生の生活支援、就職支援等で協力を頂いている団体である。今回の研修では、留学生たちのビザを留学生ビザから就労ビザへ変更する時の注意事項や書類の書き方、申請の仕方等を習得する研修である。

② 指導力の修得・向上のための研修等

・主催：一般社団法人 全国専門学校教育研究会

・日程：令和4年10月頃予定

・参加者：山下 達也

・研修名：「中堅教員向け研修「アセスメントと評価活動の実践～専門学校用の教材等を用いた設問の作り方～」

内容：一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。学習者の学修成果を適切にアセスメントすることと、それらの情報を含めて教育活動を適切に評価することが必須となり、実際に各教員の皆さまが現場で使用しているテスト問題等を題材として、それらをブラッシュアップしていくことで実践的な評価手法を体系的に学ぶ研修である。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	現在はありません

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
守井 照久	税理士法人創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 VX事業部 開発部 部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	卒業生・ 企業等委員
石崎 公生	株式会社アドボックスフォトグラフィ 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	PTA
山本 涉	医療法人和香会 倉敷スイートホスピタル 運営企画室室長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
豊田 東	岡山国際ホテル 総支配人	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
佐藤 新之助	株式会社イトン イートンちどり保育園 取締役	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 総務戦略本部 本部長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
山下 秀男	株式会社イケル 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3 月31日 (2年)	企業等 委員
北牧 涼輔	株式会社アールアールジェイ 岡山支店 支店長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員
竹井 一雄	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 常務取締役	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日 (2年)	企業等 委員
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務課長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日 (2年)	企業等 委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

公表時期: 令和4年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:<https://www.oic-ok.ac.jp>

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 1年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		言語基礎ⅠA	N2レベルの語彙・漢字の学習と文法を整理し、中級レベルの語彙・表現、文法を学習する。	1前期	48	3	○	△		○		○		
2	○		言語基礎ⅠB	読解分野について、N2へのレベルアップを図るために読解の新しい文型を理解する。	1前期	46	3	○	△		○		○		
3	○		実践ビジネス文書演習	ビジネスシーンに応じて、日本語による書類作成や情報伝達ができるようになる。	1前期	17	1	△	○		○		○		
4	○		CAD基礎演習	CAD設計の基本概念とアプリケーションの操作演習を行いCADとは何かを理解する。	1前期	15	1	△	○		○		○		
5	○		システム制御基礎演習	LEGO MINDSTORMを使い、ロボット制御プログラミングの基本を学ぶ。	1前期	16	1	△	○		○		○		
6	○		ビジネス文書作成技法	Wordの基本的なしくみと文章を作成するための様々な補助機能を活用し、ビジネス文書作成技術を習得する。	1前期	15	1	△	○		○		○		
7	○		アルゴリズム概論Ⅰ	プログラム作成時に必要なアルゴリズムについて学習を行う。プログラムの流れを考え正解が一つではない事を第一に理解する。	1前期	31	2	○	△		○		○		
8	○		通訳Ⅰ	基本的な文章表現のルールを理解し、言葉を用いて豊かに表現したり、理解する能力を身に付ける。また、聞く、話す、書くに焦点をあて、初歩的な通訳スキルおよび自分の考えをわかりやすく伝える。	1前期	35	2	○	△		○		○		
9		○	日本語能力試験Ⅰ(N3)	JLPT日本語能力試験(N3)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	1前期	75	4	△	○		○		○		
10		○	日本語能力試験Ⅰ(N2)	JLPT日本語能力試験(N2)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	1前期	75	4	△	○		○		○		
11		○	日本語能力試験Ⅰ(N1)	JLPT日本語能力試験(N1)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	1前期	75	4	△	○		○		○		
12	○		ビジネス実務Ⅰ	新入社員として必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目指す。	1通年	105	4	○	△		○		○		
13	○		労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	1通年	19	1	○	△		○		○		
14	○		通訳Ⅱ	通訳Ⅰで学んだ、基本的な文章表現のルールの幅を広げ、豊かに表現し、文章の構造を意識しながら読む力を身に付け、より高度な通訳スキルを身に付ける。	1後期	20	1	○	△		○		○		

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 1年生																	
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
15	○			言語基礎ⅡA	N2レベルの語彙・表現を場面別または機能別学習と、文法、表現を身に付ける学習をする。	1後期	34	2	○	△		○	○				
16	○			言語基礎ⅡB	N2レベルの短文、中文、長文の読解を身に付ける学習をする。	1後期	21	1	○	△		○	○				
17	○			コンピュータ概論	ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク、セキュリティなど、ITの基礎的な知識を習得する。	1後期	45	3	○	△		○	○				
18	○			アルゴリズム概論Ⅱ	プログラムの流れを考え、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。また、疑似言語も学ぶ。	1後期	16	1	○	△		○	○				
19	○			VBプログラミング演習	FormをベースとしたWindowsアプリケーションの作成方法について、使い方と文法を中心に学習する。	1後期	17	1	△	○		○	○				
20		○		日本語能力試験Ⅱ(N2)	JLPT日本語能力試験(N2)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	1後期	67	4	△	○		○	○				
21		○		日本語能力試験Ⅱ(N1)	JLPT日本語能力試験(N1)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	1後期	67	4	△	○		○	○				
22	○			Webサイト制作演習Ⅰ	Webページおよびサイトの制作手法や、技術面だけでなく、関連技術やモラルなども学習する。	1後期	17	1	△	○		○	○				
23	○			ビジネス表計算技法	Excelの基本的なしくみと特徴(計算・グラフ・データベース等)を紹介しながら、情報の整理・加工方法などの基本的な操作方法を学ぶ。	1後期	20	1	△	○		○	○				
24	○			プレゼンテーション技法Ⅰ	PowerPointを使用し基本的な操作方法を理解し、プレゼンテーションの演習を行う。	1後期	44	2	△	○		○	○				
25	○			ペン字	硬筆検定3級合格レベルの演習 手書き用履歴書作成のため。	1後期	15	1		○		○	○				
26	○			基礎英語	地球の未来のために世界全体が共有している目標がSDGsであり、世界共通語である英語で学ぶことを目的とする。	1後期	16	1	○	△		○	○				
27	○			コンピュータシステムⅠ	サーティファイ情報処理技術者能力認定試験3級合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	1後期	48	3	△	○		○	○			○	
合計						24科目	802時間(45単位)										
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
									1学年の学期区分			2期					
									1学期の授業期間			16週					

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		言語応用ⅠA	N1試験で出題される語彙と文法を機能ごとに学び、併せて重要表現及び敬語も学ぶ。	2前期	30	2	○	△		○		○		
2	○		言語応用ⅠB	N1レベルの短文、中文、長文の読解を身に付ける学習をする。	2前期	30	2	○	△		○		○		
3	○		ビジネスコミュニケーションⅠ	日本のビジネスに必要な基本的なことを身に付ける。敬語の意味や使い方を学習しながら、実際の会話で使う練習をする。	2前期	30	2	△	○		○		○		
4	○		実践ビジネス文書演習	ビジネスシーンに応じて、日本語による書類作成や情報伝達ができるようになる。	2前期	30	2	△	○		○		○		
5	○		キャリア実習Ⅰ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2前期	80	2			○		○	○	○	
6	○		情報セキュリティ概論	現状の最先端の通信ネットワークテクノロジーを確認し、実社会での通信ネットワーク技術の運用技術を学ぶ。	2前期	15	1	○	△		○		○		
7	○		アルゴリズム概論Ⅲ	プログラムの流れを考え、如何に効率よく作れるか、論理的に処理手順を考える能力を身に着ける。また、疑似言語も学ぶ。	2前期	30	2	○	△		○		○		
8	○		C言語演習Ⅰ	プログラムの流れを考え、必要な文法をどう使って作成できるか、基本文法の修得をする。	2前期	30	2	△	○		○		○		
9	○		C言語プログラミング演習Ⅰ	プログラミング技術を四則演算、分岐、配列、繰り返し等の演習中心にプログラムを作成する。	2前期	60	4	△	○		○		○		
10	○		システム制御演習Ⅰ	Lego Mindstormsを使い、各センサーの働きかたを体験する事で、組込みシステム技術を身につける。	2前期	30	2	△	○		○		○		
11	○		コンピュータシステムⅡA	ITパスポートの出題範囲に準拠し、企業活動、法務、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメント、システム戦略、開発技術、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントとシステム監査について学ぶ	2前期	30	2	△	○		○		○		
12		○	日本語能力試験Ⅲ(N2)	JLPT日本語能力試験(N2)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2前期	69	4	△	○		○		○		
13		○	日本語能力試験Ⅲ(N1)	JLPT日本語能力試験(N1)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2前期	69	4	△	○		○		○		

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
14	○		ビジネス実務Ⅱ	社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容をする事により、1年次からのレベルアップを目指す。	2 通年	111	4	○	△		○		○		
15	○		プレゼンテーション技法Ⅱ	PowerPointを使用し基本的な操作方法を理解し、プレゼンテーションの演習を行う。	2 通年	40	2	△	○		○		○		
16	○		労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	2 通年	19	1	○	△		○		○		
17		○	日本語能力試験Ⅳ(N2)	JLPT日本語能力試験(N2)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2 後期	64	4	△	○		○		○		
18		○	日本語能力試験Ⅳ(N1)	JLPT日本語能力試験(N1)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	2 後期	64	4	△	○		○		○		
19	○		ビジネスコミュニケーションⅡ	電話対応、依頼など実際の場面を設定して実践的に学び、ロールプレイングで実際のやりとりを行い、就職活動の基礎も学ぶ。	2 後期	16	1	△	○		○		○		
20	○		C言語演習Ⅱ	ファイル操作も含めポインタ、関数、構造体等を演習中心に学習する。	2 後期	16	1	△	○		○		○		
21	○		C言語プログラミング演習Ⅱ	ファイル操作も含めポインタ、関数、構造体等のプログラムを作成する。	2 後期	47	3	△	○		○		○		
22	○		コンピュータシステムⅡB	ITパスポートの出題範囲に準拠し、基礎理論とアルゴリズム、コンピュータシステム、ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワークについて学ぶ。	2 後期	18	1	△	○		○		○		
23	○		CAD演習Ⅰ	AutoCADを使い、図面の作成技術習得を目指し、押さえておきたい技術レベルの問題を解きながら学習。	2 後期	31	2	△	○		○		○		
24	○		Webサイト制作演習Ⅱ	Webページおよびサイトの制作手法や、技術面だけでなく、関連技術やモラルなども学習する。	2 後期	30	2	△	○		○		○		
25	○		キャリア実習Ⅱ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2 後期	80	2			○	○		○		○
26	○		IT業界英語	IT業界で実際に使われている英語に触れ、業務で必要となる英語での表現方法と継続して英語を学ぶ姿勢を養う。	2 後期	19	1	○	△		○		○		

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
	○		医療事務	医療機関の役割を理解し、簡単な保険請求を学ぶ	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		ビジネス実務法務	ビジネスに関連する法律の学習を通じて、社会の仕組みや業務におけるリスクを学ぶ	2 後 期	15	1	○			○		○		
	○		デザイン入門	書類やスライドなど、どの業界に出ても必要となるデータ作成上で必要となるデザインについての基礎的知識を身につけ、実践する	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		音楽	日本に伝わる四季折々の歌や世界に広がる歌を歌いながら楽器や身体、絵に描く等、表現力を高め感性を豊かにする。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
	○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		Excel・データ分析	Excelを使ったデータの活用、集計、分析方法の基礎知識について学ぶ	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける	2 後 期	15	1	○			○		○		
	○		健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2 後 期	15	1	○			○		○		
	○		ロジカルシンキング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク(考え方)を学ぶ。	2 後 期	15	1	△	○		○		○		
	○		ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2 後 期	15	1	○	△		○			○	
	○		ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形(行書体も含む)を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
	○		応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと(添削あり)を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2 後 期	15	1		○		○		○		
	○		フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 2年生															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
41	○		世界事情	グローバル化の時代、将来国内外問わず、外国人とともに仕事することを念頭に、テーマ別国際事情の講義とグループワークやディスカッションを通して、国際的視野を身につける。	2 後期	15	1	○			○		○		
合計					25科目	970時間(52単位)				
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16			

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 3年生																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			通訳	ビジネスの現場で通用する日本語能力と共に、社会人基礎力、異文化調整能力を総合的に学ぶ。	3前期	32	2	○	△		○		○		
2		○		日本語能力試験Ⅴ(N2)	JLPT日本語能力試験(N2)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	3前期	69	4	△	○		○		○		
3		○		日本語能力試験Ⅴ(N1)	JLPT日本語能力試験(N1)取得を目指し、語彙・文法・聴読解・会話作文の各分野について、試験のレベルに対応した問題演習を行う。	3前期	69	4	△	○		○		○		
4	○			Javaプログラミング演習	基本的な文法及び、オブジェクト指向の考え方を学習し、オブジェクト指向を用いたプログラミングができるようになる。	3前期	45	3	△	○		○		○		
5	○			PBL演習	チームを組んでシステム企画から設計、リリースまでシステム構築演習を実施する。	3前期	56	3	△	○		○		○		
6	○			Webサイト制作演習Ⅱ	JavaScriptを用いて動的なアプリケーションを作成する。	3前期	28	1	△	○		○		○		
7	○			データベース演習	SQLの基本的な文法及び、正規化の考え方を学ぶ。	3前期	30	2	△	○		○		○		
8	○			CAD演習Ⅱ	CAD設計の実践として、機械製図を中心に製造現場で求められる作図し技能を学ぶ。	3前期	35	2	△	○		○		○		
9	○			システム制御演習Ⅱ	工場のシーケンス制御システム及びラダー言語の基礎を学習する。	3前期	30	2	△	○		○		○		
10	○			コンピュータシステムⅠ	ITパスポートの出題範囲に準拠し、ストラテジ系、マネージメント系、テクノロジー系を学ぶ。	3前期	46	3	△	○		○		○		
11	○			労務管理	グローバル社会が進む中で、留学生が採用された企業において、安心、安全に働くことができ、企業内での活動が円滑にできるようにする。そのために労働基準法を中心とする関連法令を習得する。	3前期	17	1	○	△		○		○		
12	○			ビジネス実務Ⅲ	「ことば」の力を強化し、社会人としての心構えを身につける。	3通年	137	4	○	△		○		○		
13	○			プレゼンテーション技法Ⅱ	企画したシステムを演習を通じ、効果的なプレゼンテーション力を身に着ける。	3後期	32	2	△	○		○		○		
14	○			コンピュータシステムⅡ	各種システム開発で必要となる、システム設計手法やプログラミング手法、ドキュメント作成手法を学ぶ。	3後期	30	2	△	○		○		○		

(工業専門課程 国際ITシステム学科) 令和4年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○		実践ビジネスコミュニケーション	企業内におけるビジネスシーンで、一般によく使われる会話を理解し、対応できる力を身に付ける。	3後期	45	3	△	○		○		○		
16	○		IT企業リテラシー	IT関連企業での、業務遂行から外部との折衝、海外との連携など幅広く学ぶ	3後期	30	2	△	○		○		○		
17	○		接遇演習	日本でのビジネスシーンで、日本固有のしきたりや、企業内での来客対応などについて学ぶ。	3後期	17	1	△	○		○		○		
18	○		IT実践演習	「システム開発」「Webシステム」「システム制御」「CAD」の各分野について実践的な演習を行う。	3後期	55	3	△	○		○		○		
19	○		卒業研究	3年間の集大成として、情報系本科学科と共に実践的な演習を行い成果発表する。	3後期	84	2	△	○		○		○		
合計					18科目	818時間(42単位)									
総科目					67科目	総時間 2590時間									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
①必修の全科目及び選択必修で選択した科目の成績がC評価以上 ②すべての授業の出席率90%以上 ③サーティファイ 情報処理検定3級、 サーティファイ C言語検定3級、 サーティファイ Java検定3級 サーティファイ Excel検定3級のうち1つに合格 上記条件を全て満たした学生に対して卒業を認定する								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				16週			